中西美沙子 [教育コーディネーター]

大丈夫よ! お母さん!

～大きな目、小さな目～

こんなにおおらかで、ゆったりしているのは、なぜだろう。講演先で、来場者の雰囲気や表情から、そんな風に感じることがあります。大家族の中で生きてきたお母さんたちと話しをする機会の時にも、同じことを感じます。誰もが、「安心」に満ちた表情をしているのです。それは過ぎ去った「時の長さ」からだけではないようです。

現代は、どの家族も未来への不安を持っています。それは、なぜでしょうか。

先日テレビで、子育てについての番組がありました。現代の親の子育てに対する不安と不満に、ある年配の女性が語っていました。「私たちの頃は、子どもを背負って洗濯や炊事をしました。今は電化製品に全てをしてもらっているのに、不満なのだろうか」。

確かにかつては、主婦の多くは大家族の中で、「一つの労働力」でした。このような古い慣習が良いわけではありませんが、ある意味では、苦労の中での子育ての実感や、家族に抱かれている安心感が、今よりあったのでしょう。快適で機能的な社会にいてなお、「不安」と「不満」があるとしたら、それは「これでいい」と思える実感が薄いからなのかも知れません。

今の日本は、家族のあり方が欧米化しています。都市部では、昔のような大家族はほとんど見られません。「核家族化」が、現代の家族の不安の全てを作ったわけではありませんが、それが古い家族の関係を断ち切ったのは、事実です。そしてその関係で生まれる「遠慮」や「思いやり」、人に「合わせる」などの感覚も、私たちは失ってしまったと思えるのです。

大家族は、近親者の集まりですが、「公的」な役割を果たしていました。それは、自分の行動や意見が、家族の目に「見られている」ところに生まれる感覚です。「自分と他者」という関係を意識することといってもよいでしょう。

子どもの教育についても、一つの見方ではなく他の人の考えが助けになりました。単眼で見るのではなく複眼で見ることは、ある意味で「公的」な感じを持てたのです。「誰かと一緒に見ている」という感覚です。

現代は「孤立」の時代。家族の関係も、家族と社会の関係も、希薄になっています。それは、大家族の形が変わる時に、個人がどのような「家族作り」をするかを考えなかったところにあったと思えるのです。

でも、大丈夫。私たちが失ったものを、現代的なしかたで取り戻すことはできます。「これでいい」という感覚は、他者との関係を多く作ってゆくところに生まれるでしょう。「読書」「音楽」「仕事」など、自分の好きなものから他人と結びつく場は、至る所にあります。諦めずに探してみては。

多くの他者との関係から、「公的な目」は養われます。子どもを見る目も変わり、元気な子どもがどんな可能性を秘めているかが、実感としてわいてくるでしょう。

中西美沙子プロフィール

教育コーディネーター。執筆・講演活動の傍ら、文章教室「スコーレ」・画廊「キューブ・ブルー」（浜松市中区元城町）を主宰。文章教室「スコーレ」では、小学生から大人まで幅広い層を対象に、ただ書き方を教えるのではなく、「この時代をどのように生きるか」を見つめさせるような試みをしています。お問い合わせは、TEL.053-456-3770

ホームページは 中西美沙子 検索

著書の「ピアニシモでね」（東京書籍）は、中日新聞に連載した人気コラム「つかまえて!こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。（税込1,500円）

＝お求めは浜松市内の谷島屋で＝